

■ 議会活動チェックシート (令和3年度)

基本項目	詳細項目	計 画				検 証				
		課題としていたこと	解決方法	取り組む内容	取り組み時期	進捗度・達成度	取り組みの結果できたこと	課題事項・問題点	住民から見た変化	今後の取り組み方法
情報公開	会議、審議資料の公開	・常任委員会のネット配信の視聴者数(市民)、視聴した方の反応が判り難い。 ・議会、常任委員会のネット配信について、PRLしていく必要がある。	カメラワーク、会場の座席配置の工夫	・できるだけ多くの市民に視聴してもらうための方策を検討する。 ・視聴者(市民)の意見を聞く機会を作る。	随 時	継続・C	・本会議、各委員会の審議をライブ配信した。	・ライブ配信の視聴者数が減少傾向にあるため、視聴者拡大の取り組みを実施しなければならない。	・傍聴に来なくても、本会議、委員会審議の内容を知ることができる。	・1人でも多くの市民に視聴してもらうため、スマートフォンで視聴できることをPRする。 ・先進事例を調査し、導入の可能性を検討する。
	各議員の活動状況の公開	議会だよりでの出欠状況公開など、情報をどこまで公開するか。	情報をどこまで公開するか対象を吟味し、基準をつくる。		令和元年度 後半					
住民参加	住民との意見交換のあり方	かだって会議をH28以降開催していない。 (※令和2年度に開催)	かだって会議を開催する。	・多種多様な層との意見交換をするため、年2回程度開催する。また、学校等に出向いての実施も検討する。	令和3年度 後半	継続・D	・かだってタイムズの企画で、これまで4回に亘り、各種団体等との意見交換を実施している。	・感染対策を十分に行って、意見交換の場を作らなければならない。	・意見交換を行うことで、議会活動を知ってもらうことができる。	・年2回程度開催し、多種多様な層との意見交換を実施する。 ・学校等に出向いての実施を検討する。 ・観光業、飲食業等の疲弊している業界との意見交換を検討する。
		「かだって×かだって」の委員外議員の参加。もらった意見の処理方法。	委員外の議員が参加できるように配慮する。	・所管外の意見について、議会改革推進会議に持ち込み、対応を協議する。 ・状況に応じオンライン会議も含めた開催方法を検討する。	毎年度(年4回)	継続・B	・「かだって×かだって」の対談企画で出された意見、要望について、改革推進会議で取り上げ、当局と意見交換を行い、その回答を得て市民に返すことができた。 ・オンライン会議はできなかったが、懇談の内容が深くなっていると思う。	市民からいただいた意見の処理方法が定まっていない。	・「かだって×かだって」の対談企画で出された意見、要望について、回答を得ることができた。 ・要望と回答について、かだってタイムズの「追跡」のコーナーで取り上げた。	・市民からいただいた意見の処理方法を明確にする。
	議会モニター会議から得た広聴広報会議の所管外の意見処理(議会運営に関することなど)	議会運営と広聴広報に関する意見処理をスムーズにするため、然るべき組織へ所管変更する。	議会モニターから出された意見の検討を改革推進会議で行う。	毎年度	継続・C	・モニター会議を開催し、モニター制度、議会についての説明を行った。 ・ワールドカフェで、「議員のなり手不足」について話し合った。	・モニター会議で出された意見への適切な対応、処理ができていない。 ・市内における感染症の発生状況により、モニター会議の定期開催ができなかった。	・議会の仕組み、モニター制度について理解することができた。 ・若者から見て魅力ある会議について考えることができた。	・モニター会議で出された意見の処理方法を明確にする。 ・モニター会議を定期的に開催する。 ・各種意見を書面で受け取ることを検討する。 ・オンライン会議限定の議会モニターの募集を検討する。	
	住民への議会報告のあり方	議会報告会をH28以降開催していない。 (令和2年度において、各種意見交換の場で報告を行った)	「議会報告会を年1回以上開催」の条文にこだわらない多様な報告の場の展開。 各種意見交換の場で議会報告を併せて行う。	・幅広い層から議会活動を理解してもらうために、報告内容をわかりやすく調製(中学生以上が理解できる内容)する。	令和元年度 後半 随 時	継続・D	議会報告会を開催できなかった。			・かだって会議の開催に合わせて議会報告会を開催する。(2回)
新たな住民参加のあり方	多様な層との意見交換の場や議会活動の発信の場の展開	多様な層に向けた、意見交換の場や議会活動の発信の場の創設、広報手段の展開	・実施要項を制定し、まちなかプチ議会を本格実施する。	必要に応じて	継続・C	・まちなかプチ議会を開催し、意見交換の場とした。 ・小学生に議場を紹介するため開放した。	・感染拡大リスクを考えた取り組みを工夫しなければならない。 ・小中学生、高校生への議場の開放を計画的に実施して良いのではないかな。	・議員と接する機会になった。 ・議員との距離感が縮まった。	・場所を変えながら実施していくべき。 ・オンライン会議による意見交換の実施を検討する。 ・高校生との意見交換について、オンライン会議の実施を研究する。 ・市民市場、べっぴんの湯、市日など、賑わいのある場所に出向いてプチ議会を開催する。	
広聴広報会議のあり方	広聴広報会議の委員負担増大(領域・量)	議会モニター会議の所管変更による負担減		令和元年度 後半						

■ 議会活動チェックシート (令和3年度)

基本項目	詳細項目	計 画				検 証				
		課題としていたこと	解決方法	取り組む内容	取り組み時期	進捗度・達成度	取り組みの結果できたこと	課題事項・問題点	住民から見た変化	今後の取り組み方法
議会の機能強化	委員会活動の活性化	充実した予算・決算の審査方法の検討 常任委員会における市民との意見交換の場の設置	予算・決算を常任委員会化し、常任委員会所管事務調査と分科会審議をリンクさせることで、予算・決算審査を充実させる。 各常任委員会によるテーマ別意見交換を実施する。	・予算・決算勉強会を継続して実施する。 ・予算・決算の常任委員会化の先進地について、オンラインでの視察を検討する。 ・前任期の政策提言について、各常任委員会で行った検証の結果を6月定例会議で報告する。	令和3年度～令和4年度 令和3年度	継続・C 継続・D	・行財政研修会(市政調査会事業)を実施し、会議に臨んでいる。 ・前任期に行った政策提言の検証を行い、6月定例会議で検証結果の報告を行った。 ・第5会期における政策提言を行うための調査の一環で関係課との意見交換を実施した。	検証過程での市民との意見交換について、全ての委員会では実施できなかった。(産業建設委員会が実施)		・市議会議長会総会への提出案件や県への重点事項要望について、各委員会に諮ることを検討する。 ・取り組みを進めている政策提言を取りまとめ、9月定例会議に提出する。 ・各委員会でアンケート調査を実施するほか、市民から意見を聴く場を設ける。
	議員間討議の充実	議員間討議における内容・質の不足	質の向上に向けた研究や研修の場を設け、議員相互に高め合う。	・議員間討議に係る研修、ファシリテーション研修を実施する。	随 時	継続・D	・政策形成サイクルを回していくための研修会を実施した。			・ファシリテーションに関する研修を実施する。 ・先進地とのオンライン研修を実施する。
	他の議会との交流・連携の推進	他の議会との交流・連携の活発化	袖ヶ浦市議会や新たな相手先との活発な交流・連携	・オンラインによる交流を検討する。 ・感染症の状況を見ながら、他の議会との交流を行う。また、袖ヶ浦市議会だけでなく、災害協定等を締結している自治体との交流も行う。	随 時	継続・D	・オンラインによる視察の受け入れを行った。(舞鶴、袖ヶ浦、茅ヶ崎) ・奥州市議会との交流(政策形成サイクルの研修)			・災害協定を締結している自治体との交流を検討する。 ・青森県鮎ヶ沢町との交流を検討する。 ・前述の交流について、感染症拡大の状況を見ながら、オンラインでの実施も検討する。
その他	議員報酬のあり方と政務活動の充実	議員報酬、政務活動費についての議論	結論を導くための議論を深める。	・市民から理解を得られるよう、議員活動、議会活動を更に活発化し、その活動内容を周知する。	令和3年度～令和4年度	継続・E	・モニター会議において、「議員のなり手不足」について考え、議員報酬についても触れられた。	過去の冷害の際に議員報酬を引き下げた経緯があり、冷害前の水準に戻すことが必要。		・市民から理解を得られるよう、議員活動、議会活動を更に活発化し、その活動内容を周知する。 ・感染症の状況を見ながら検討に着手する。

* 「優先度」 A : 高、B : 中、C : 低

* 「達成度」 A : 全て (100%)、B : 概ね (75%)、C : 半分 (50%)、D : 一部 (25%)、E : 未着 (0%)